

谷は一面、黄色のじゅうたん 尾原ダム・菜の花まつり2006



一面に咲く菜の花を楽しむ来場者

四月二十三日、雲南市木次町の尾原ダム建設予定地で「菜の花まつり2006」が開催されました。当日は好天にも恵まれ、地元はもとより松江市、出雲市などから約千人が訪れ満開の菜の花と地元の味覚を満喫しました。

尾原ダムを地域に開かれたダムとして多くの人に知ってもらおうと、奥出雲町、雲南市、NPO法人斐伊川くらぶなどでつくる実行委員会が主催し今年で七回目となります。会場の約一・五haの畑には菜の花が咲き誇り、多くの家族連れなどが写真を撮影したり散策したりしていました。



テント村では地元の特産品が大盛況でした

満開の菜の花のなか、来場者によるフォトコンテストも行われていました。イベント会場では、手打ちそば、舞茸、山菜など地元の味を楽しめるテント村、ダム事業で発掘された出土品の展示コーナー、ダムのPRコーナーや子ども神楽の披露、ブラスバンド演奏など多くの催しも行われ、会場は一日中多くの人で賑わいました。

また建設現場の見学会も行われ、建設予定地に入り担当者から事業の説明もありました。



イベントを楽しむ多くの来場者

尾原ダム建設事業は「県政百年の大計」と言われ多くの協力のもと工事が進められており、取り付け道路の建設、仮排水路工事、川の流れを一時的に切り替える転流工事など大規模工事も次々に行われ、今年度からはいよいよダム本体工事が始まる予定です。平成二十二年の完成を目指し、今後も多くの事業が展開されます。



ト藏 良治氏 馬馳 瑞宝双光章を受章

ト藏さんは、昭和26年三成中学校教諭として着任され、以来40年余りの永きにわたり中学校教諭また中学校校長、松江教育事務所次長などの要職を歴任し、教育の振興発展、学校施設の充実に尽瘁されました。

また平成13年からは旧仁多町教育長として町の教育振興全般に鋭意尽力され、特色ある学校教育の推進、教育環境の整備に多大の貢献をされました。それらの功績により、今回叙勲の栄に浴されました。

地域林業振興の誓い新たに 仁多郡森林組合合併15周年記念式

仁多郡森林組合の合併15周年記念式が四月二十四日、カルチャープラザ仁多において開催されました。

仁多郡森林組合は、平成三年に旧仁多町、横田町の森林組合が合併して誕生し、以来地域林業の中核的組織として健全な事業運営に努め、各方面への優良な国産材の供給、森林環境整備など地域に即した施策を積極的に導入し、森林・林業の振興、発展に大きく寄与してきました。

記念式には、岩田町長、本田島根県東部農林振興センター所長、速水雲南市長など多くの来賓や組合員約二百人が出席し、糸原組合長からは「今後は間伐材関係の事業を展開し、健全な森林を育成し、更に地域林業



式辞を述べる糸原組合長

の推進を図りたい」と式辞がありました。また多年にわたり林業後継者の指導、育成に尽力された元森林管理隊指導員の石橋久

雄さんには、糸原組合長から感謝状が贈呈されました。出席者は、地元の更なる林業振興の誓いを新たにしました。

子どもの安全確保に 「こども110番のいえ」 のぼり贈呈式



贈呈式の様子

全国的に子どもを狙った犯罪が増加しており、奥出雲町では地域住民、事業所、警察等多くの理解と協力のもと、様々な安全対策を講じています。この取り組みの一つとして、子どもが危険な時に駆け込む「こども110番のいえ」制度がスタートし、現在町内に百四十四カ所が指定されています。

このたび、この家の目印としてのぼり旗を横田の高木将斗さんから寄贈いただき、その贈呈式が四月十七日に横田小学校で行われました。

高木さんは「みんなが楽しく学校に通えるよう、旗の家がどこにあるか確認してください」と挨拶を行い、児童の代表者にのぼり旗を手渡しました。

児童からは「何かあったらこの旗の家に入ります。これから見守ってください」とお礼の言葉がありました。式が終わると児童たちは、早速のぼり旗を取り付け、「こども110番のいえ」を確認していました。